王堂、淺草寺奥山（幷脱衣婆在、虫歯病者祈願す、）同寺中正智院（寺釋迦堂内）淺草誓願寺中西慶院、上野清水觀音堂内、下谷廣小路常樂院、下谷坂本善養寺、（○中略）今日、諸寺院地獄變相の畫幅を掛る、（本所押上眞盛寺に藏する所の閻魔廳前の圖は、京師の畫匠圓應舉が筆にして、飛動衆目を驚かしむ、今日本堂に掲て拜せしむ、）

〔華實年浪草七上七月〕生身魂（イキタマ）、蓮飯、刺鯖、紀事曰、此月公武兩家各被レ饗レ親、是謂生身魂、或稱生盆、地下民賤亦然、又此月十五日前、人家各以荷葉裹糯米飯、載鯖魚於其上、親戚之間互相贈而祝之、是謂荷飯（ハス）也、此月專賞鯖魚、一雙稱一插、以一ケ首插一ケ首、内依レ之稱一插、刺鯖是和漢三才圖會曰、刺鯖爲中元日祝用、但自レ脊傍レ骨割開鰓之、二枚作一重、謂之一刺、其色青紫者爲上、能登之産爲上、越中次之、同書曰、蓮飯供考妣靈前、又以贈親戚爲禮式、稱之曰生靈祭也、用荷葉包蒸糯飯、用觀音草縛之、以佛名爲好乎、閑窓倭筆曰、本朝ノ世俗七月ニナレバ、生ケル二親ヲ供養シテ、生身魂ト名ヅク、是モ盂蘭盆ノ修行也、盆經曰、願使現在父母、壽命百年無病、無一切之苦惱之患、是七月十五日僧自恣ノ日、現在ノ父母ノ壽命長久ヲ祈ル發願ノ文也、是生身魂ノ修行ナリ、

〔輪池叢書六〕生見玉考（○中略）假名記ニハ、目出度事ノ御祝トハ、イキミ玉ノ心ナリト云ヘリ、生身玉ノ祝ノ事、世俗ニテハ、親アル人、親ヲバ祝スルヨシナレドモ、御所ガタハ有無ニヨラズ御祝アル也、是ハ八日ヨリ十三日マデノ内、吉日ヲエラビテ、御厨子所、高橋大隅兩家ヨリ奉ル、七獻幷ニ五ツ居、二ツ居ノ御獻アリ、

〔後水尾院當時年中行事上月〕御めでた事、盆前此事有、日限不レ定也、兼日、宮門跡御比丘尼衆、内々の男衆、ぶれもよほされて伺候あり、正親町の院の御時までは、宮門跡御比丘尼衆等伺公なし、舊院（○後陽成）の御時も、たゞ一度おの〳〵祇候にて、今出川前右府晴季公抔も、座につらなられしとかや、其後はおの〳〵召はあれど祇候はなし、長座窮屈人々暑氣にたへざるによりて斟酌有なり、其ゆへに日をかへて伺公あれば、是も御三間にて二こんまいりて天盃たぶ、天酌まではなし、各伺公の時は、十一獻十三獻に及で、あけはなるゝ事のみにて有けるとや、今はさまではなけれども、毎度曉天に及、御座已下公卿の座にいたるまで、かまへやうみな月におなじ、女中おの〳〵まろすゞしを著用、先初獻（ぞう）御盃一こんまいりて、女中呑とをる、二こん（そろ）御そへくしまで供じて後男をめす、公卿すのこの座につく、藏人そろ〳〵を公卿のまへにするわたしてのち、内侍御、